



水土里ネット竹田 (1)音無井路(水土里ネット竹田:円形分水)



円形分水

information

音無井路開削紀元は、元禄6年(1693)元岡藩士須賀勘助が入田郡への水路を開削したことに始まる。悪戦苦闘の末、水源地大谷より九重野上西まで完成させ、通水の運びとなったが運悪く、その年の暴風のため水路・釣樋が大破し勘助は割腹して藩主にわびたとの記録が残っている。その後、寛保3年・文化年間・天保7年にも井路開削の準備に取りかかったが年月と金が想像以上に要することからいずれも失敗している。

明治9年、水路開削の気運が高まり調査を開始、同16年に工事着手、末流迄完成は明治31年(1896)となっている。

水路完成後、各地への水の配分方法で水争いが絶えなかったが、面積に応じて3本の水路に分水するこの施設の完成により水争いは終焉した。



小学生が作成した円形分水の模型



建設年	昭和9年(1934年)
所在地	竹田市大字九重野
諸元	直径6.42m、20個の四角い穴が割り振られている。
お問い合わせ	竹田市大字竹田字山手1501-2 竹田市土地改良区 TEL0974-63-1822 (FAX共通)